

いま一度、災害への心構えを新たに



平成23年3月11日の東日本大震災による被害の様子(北須賀)

今から90年前の大正12年9月1日は、関東大震災が起きた日です。わたしたちは、この日を「防災の日」と定め、災害に対する認識を新たにすると位置付けています。平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、2年以上を経過した今でも、復興が思うように進んでいません。いつどこで起こるか分からない大地震に備え、いま一度、防災対策の見直しを行いましょう。

一人一人が心掛けたい

災害が発生したら 落ち着いて行動

大規模な災害が発生すると、公共交通機関の運行が停止し、帰宅が困難になり、大勢の人が道路を歩くことで、火災や沿道の建物からの落下物などにより負傷する危険性が高まり、また、救助・救急活動の妨げとなる場合があります。

東日本大震災では、都心部から多くの人が一斉に徒歩で帰宅を始め、大規模な交通渋滞が発生し、緊急車両の通行が妨げられる事態

が多発しました。

災害発生時には、むやみに移動を開始せず、次のように落ち着いて行動しましょう。

- まず身の安全を確保しましょう
- 職場・集客施設などの頑丈な建物の中にとどまりましょう
- 電話会社が提供している災害用伝言サービス(3ページ参照)を利用し、家族の安否や自宅の無事を確かめましょう
- 交通情報や被害情報などを入手しましょう

災害の備えは 日ごろから

さらに、災害発生を想定して、

日ごろから次のような準備を心掛けましょう。

○携帯ラジオや地図を持ち歩きましょう

○職場などに、歩きやすいスニーカーや懐中電灯・手袋・飲料水・食料などを用意しておきましょう

○家族などと安否確認の方法や集合場所を話し合っておきましょう

○徒歩やバスによる帰宅経路の状況を確認しておきましょう

帰宅困難者を支援します

九都県市(千葉県・東京都・神奈川県・埼玉県・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・さいたま市)は、災害発生時に、徒歩で帰宅する人を支援するため、コンビニエンスストア・ファミリーレストラン・ファストフード店・居酒屋・カラオケ店・ガソリンスタンドなどと「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」を締結しています。

これらの店舗では、災害発生時に、水道水・トイレ・休憩場所の提供のほか、道路交通情報などを可能な範囲で提供します。

店舗の入り口などの見やすい位置に「災害時帰宅支援ステーションステッカー」を掲示していますので、日ごろから帰宅経路にある店舗を確認しておく目安です。

災害時帰宅支援ステーションステッカー



ガソリンスタンド



コンビニエンスストア・ファミリーレストランなど

防災行政無線やテレホンガイドで

災害情報をお知らせします

市では、災害が発生した場合の避難に関する情報などのほか、緊急を要する行政情報を防災行政無線で放送しています。

防災行政無線の放送が聞き取れなかったり、聞き逃したりした場合は、防災無線テレホンガイド

(☎0120・383898)、市ホームページ(<http://nrt.171k.jp/information/>)、防災メール(下記参照)で確認してください。

地域で取り組みたい

家族や隣人と協力し被害を軽減

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊などにより、生き埋めになったり閉じ込められたりした人のうち、消防などの公的機関に救助された人はわずか2パーセントで、多くは自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されました。

被災地域では、災害発生直後から多くの火災が同時発生した場合、全ての災害現場に消防が駆け付けることは不可能な状態になるなど、公的機関による被災者支援などの緊急対応には限界があります。その反面、被害を最小限に抑えるためには、災害発生後、早い段階での救助が必要となります。

このような場合、隣近所の人がお互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組むことによって、被害を軽減することができま

す。災害発生時はもちろん、日ごろから地域の人たちが一緒になっ

防災メール配信サービス

防災情報などを携帯電話やパソコンにメール配信します

市では、携帯電話やパソコンへの防災メール配信サービスを行っています。メール配信を希望する場合は、あらかじめ利用登録を行ってください。

登録方法

- ①利用する携帯電話やパソコンから[k@nrt.171k.jp]にメールを送信する
- ②[info@nrt.171k.jp]から「防災メールの登録はこちら」という件名のメールが返信される
- ③メールを開き、記載されたアドレスをクリックしてインターネットに接続し、「◆利用者登録◆」をクリックして登録画面へ

配信される情報

- 災害・気象情報…災害情報、避難所・救護所情報、気象警報、地震情報(震度4以上の場合)、大気に関する情報(光化学スモッグやPM2.5など)
- 消防情報…消防情報
- 防犯情報…警察情報、不審者情報
- 防災無線情報…防災無線情報

※くわしくは危機管理課(☎20-1523)へ。

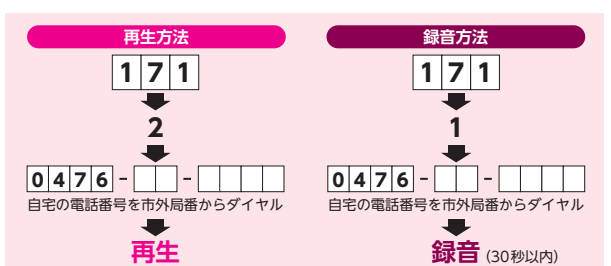
試してみませんか 災害用伝言ダイヤル

災害発生時は、家族の安否確認などの電話が集中するなど、回線が混雑して電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤル「171」は、ほかの回線よりもかかりやすいシステムです。

使い方に慣れてもらうために、9月5日(木)までの毎日と、毎月1日・15日に、試験的に利用することができます。この機会に家族や知人と、安否確認方法の1つとして試してみませんか。

また、携帯電話各社でも災害用伝言板サービスを行っています。

利用方法については、各社に確認してください。



防災Q&A

Q1 突然の大きな揺れ。「身を守ること」と「火を消すこと」。どちらを優先したほうがいいですか？

A1 揺れを感じたときに、すぐに火を消せる場合は、火を消

しましょう。ただし、揺れが大きいときは、揺れが収まるまで自分の身を守りましょう。自分自身が無事であれば、後から消火することができます。例えば料理中の場合、無理に火を消そうとすると、鍋の油や料理が飛び散るなど、やけどをする危険性があります。

Q2 「1階」と「2階」。どちらが安全ですか？

A2 2階で強い揺れを感じたとき、慌てて1階に下りてしまいがちですが、階段が崩れ落ちたり、1階部分が押しつぶされたりする場合があります。非常に危険なため、どちらかといえば2階の方が安全であると考えられます。地震が発生したら、無理に1階に下りようとせず、自分自身の安全を確保し、揺れが収まるのを待ちましょう。

Q3 避難するときは、どのようなものを持っていけばいいですか？

A3 下記の「災害用チェックリスト」を参考にしてください。

まずは、自分の身を守りましょう！



防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

自主防災組織で高める地域の防災力

自主防災組織は一般的に、自治会または町内会を単位として結成されます。

市内の区、自治会、町内会287組織のうち、自主防災組織が結成されているのは89の組織で、周辺自治体と比べて少ない状況にあります。

自主防災組織がまだ結成されていない地域では、自治会などが中

心となり自主防災組織を設立することを検討してください。

また、既存の自主防災組織では、平常時における防災訓練や防災啓発を継続的に実施し、地域の防災力を高めていきましょう。

自分や地域を守るために心掛けたいこと

いざというときに共に助け合えるようにするためにも、隣近所の人とのコミュニケーションを大切にしましょう。

普段から地域の人たちと交流して「自分たちの地域は自分たちで

守ろう」という意識を高めることが重要です。普段何げなく交わっているあいさつも「自主防災」の第一歩です。

大規模な災害が発生したとき、救助や避難の場面において、普段の近所付き合いが大きな力を発揮する場合があります。

自分の安全は自分で、地域の安全は地域で、地域で対応が難しいことは行政で、それぞれ可能な範囲で取り組み、被害を最小限に抑えることが大切です。

※くわしくは危機管理課(☎20・1523)へ。

災害用チェックリスト

貴重品

- ☐ 現金(小銭も)
- ☐ 印鑑
- ☐ 保険証
- ☐ 預金通帳や有価証券の写し
- ☐ 本人を確認できるもの

衣類・洗面道具類

- ☐ 下着類
- ☐ 靴下
- ☐ セーター類
- ☐ タオル
- ☐ せっけん
- ☐ 歯磨き用品
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 生理用品

小道具類

- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 乾電池
- ☐ 軍手
- ☐ ライター・マッチ
- ☐ 栓抜き・缶切り
- ☐ ティッシュ・ウェットティッシュ

水・食料品

- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 筆記用具
- ☐ 雨具
- ☐ 救急セット(常備薬も)
- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食
- ☐ 飲料用ポリタンク

避難するときに持っていくもの

3日分を目安に備蓄しておくもの

懐中電灯(できれば1人1個・予備の電池も)、ろうそく、食料、ビニール袋、固形燃料、簡易ガスコンロ、1人1日3リットルの飲料水、ペット用の餌や水

被害が大きいと、行政機関(自治体、消防、警察、自衛隊など)による救援活動も難しくなります。公的支援が受けられるまでのおおむね3日間は、自力で避難生活が送れるよう、あらかじめ準備しておきましょう。

防災行政無線で緊急情報伝達試験

全国瞬時警報システム(J-ALERT、ジェイ・アラート)とは、地震・津波や武力攻撃などの災害時に、国から送られてくる緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

市では、この緊急情報を市民の皆さんへ伝えるため、防災行政無線を使った緊急情報伝達の試験を行います。なお、本市以外の地域でも、全国的に緊急情報伝達試験が、同日実施されます。

日時=9月11日(水) 午前11時ごろと11時30分ごろの2回

放送の内容=「これは試験放送です」(繰り返し3回)、「こちらは防災なりたです」、防災行政無線チャイム

※くわしくは危機管理課(☎20-1523)へ。



参加してみませんか

AED操作・地震体験

大切な家族・友人・知人が突然、あなたの目の前で倒れたとき、119番通報をしてから救急隊が到着するまでの数分間は、倒れた人の生死を分けるとも重要な時間です。その間に適切な応急処置ができれば、尊い命を救うことができるかもしれません。

普通救命講習会でAEDの操作を習得

AED(自動体外式除細動器)は、病気や事故などで心臓が正常に動かなくなった人に、必要に応じて電気ショックを与え、心臓の動きを正常な状態に戻すことを試みる装置です。

心電図の解析などを機器が自動で行うため、医師以外の人でも操作できるのが特徴です。現在、市内の約150カ所に設置されています。設置場所は、市ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/DAT/000097337.pdf>)に掲載されています。

また市では、市民の皆さんにAEDの操作方法や心肺蘇生法を身に付けてもらうため、定期的に普通救命講習会を開催しています。今後の日程は「広報なりた」などでお知らせしますので、ぜひ参加してください。

9月7日に防災&救急キャンペーン

市では、救急医療週間(9月7日(土)~13日(金))に合わせて、市民の皆さんに救急隊の活動を身近に感じてもらう



消防隊員が心肺蘇生法を指導

と「防災&救急キャンペーン2013」を開催します。

AEDを使った心肺蘇生法の体験のほか、救急資材の展示や救急活動の実演などを行います。

また、震度7までの地震を疑似体験できる地震体験車も登場します。

これらの催しを通して、いま一度、防災に対する意識を高めてみませんか。

皆さんぜひ来場してください。

日時=9月7日(土) 午前10時~午後4時

会場=イオンモール成田1階ガーデンコート

※くわしくは警防課(☎20-1592)へ。

地震体験車とは

地震体験車は、前後・左右・上下に動き、震度1~7の震度別の揺れや、過去に発生した「阪神・淡路大震災」などの大規模地震の揺れを再現します。

地震体験車に乗ることで、地震の揺れによる恐怖を、実際に体験することができます。

また、車両の後部には昇降用リフトが付いていて、車いすの人も体験することができます。



震度1~7を再現